

文教委員会

担当している主な分野

- ⇨ 市内小中学校運営や教育行政の運営
- ⇨ 図書館、公民館、博物館など、社会教育分野
- ⇨ 芸術・文化振興、生涯学習、市民活動、地域コミュニティー
- ⇨ 観光・産業振興、映画のまち調布の推進
- ⇨ 市民スポーツ振興など

本日の報告事項

- ①観光振興について
- ②教育支援の充実について

審査決算額

(教育部所管)

歳出：約53億200万円

人件費を除く

(生活文化スポーツ部)

歳出：約29億4000万円

人件費を除く

～委員～

- ◎鈴木宗貴
- 宮本和実
- 大須賀浩裕
- 川畑英樹
- 岸本直子
- 橘正俊
- 田中久和

文教委員会の委員



行政視察 佐久市 岩田村本町商店街

◎鈴木宗貴

○宮本和実

大須賀 浩裕

川畑 英樹

岸本直子

橘 正俊

田中久和

◆主な審査内容

○条例改正：調布市ふれあいの家条例の一部を改正する条例

○教育部

- ・命の教育活動の推進
- ・小中学校施設整備の充実
- ・特別支援教育の推進
- ・アレルギー事故再発防止に関する取り組み
- ・各中学校への防災ヘルメット購入(新規事業)

○生活文化スポーツ部

- ・文化施設、コミュニティ施設、スポーツ施設の運営整備
- ・生涯学習の推進、観光振興、地域コミュニティの醸成
- ・地域経済の活性化を目指した事業支援策
- ・都市農業の育成
- ・調布駅前広場を利用したマルシェの開催

＜本日の報告事項＞

①観光振興について

②教育支援の充実について

観光費振興について



- | | |
|--|--------|
| ○調布市花火大会運営費補助金 | 2000万円 |
| ○映画のまち調布推進事業費
(フィルムフェスティバル、フィルムコンテスト) | 542万円 |
| ○調布市観光協会補助金 | 1430万円 |
| ○調布市観光PR事業
(観光案内所運営、深大寺AR) | 2614万円 |

「観光振興について」 ~委員会審査より~

2017年度にシネマ
マコンプレックス等
駅ビル3棟が開業
予定

2020年 オリ
ンピック・パラリン
ピック開催

Q:「映画のまち調布
」として特徴ある、誰
にも使いやすい映画
館となるように

Q:市民参加
型でモニュメント
や新たな市民ま
つり等を展開す
ることについて



映画のまち調布

東洋のハリウッド

A:障がい者・
子育てにやさし
い、映画だけで
なく多様な使い
方ができる施設
となるよう事業
者と協議をして
いく

A:行政からの一方
的なものでなく、市民
が一緒になって、喜ん
でもらえる企画、継続
出来るイベントを検討

フィルムコンテストや
フィルムコミッション、
新たな市民イベント
やモニュメントなどで
「映画のまち調布」を
さらに大きく展開

映画のまち調布

～市民参加型で～

- フィルムコミッションの発展
市民エキストラ登録者を増やす
- 調布を象徴するモニュメントの設置
公募、寄付、ふるさと納税の活用
- 特徴あるシネコンになるように
高齢者や障がい者への配慮
映画上映だけではない用途での利用
- 映画のまちとして調布市のイベント等
を動画で発信



教育支援の充実について

〈主な事業〉

・特別支援教育事業運営費 約4千万円

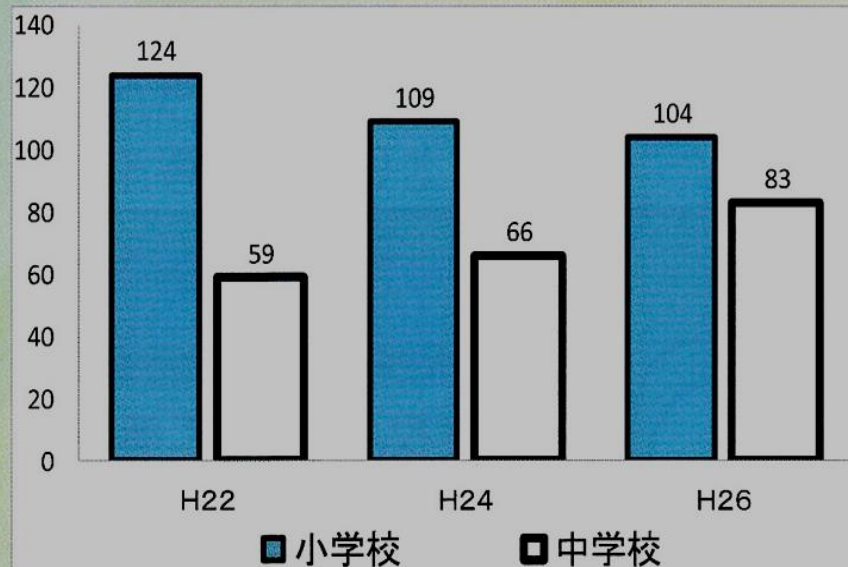
- スクールサポーター
- 巡回検査・訓練
- インクルーシブ教育システム構築モデル事業

・教育指導管理費 約9千4百万円

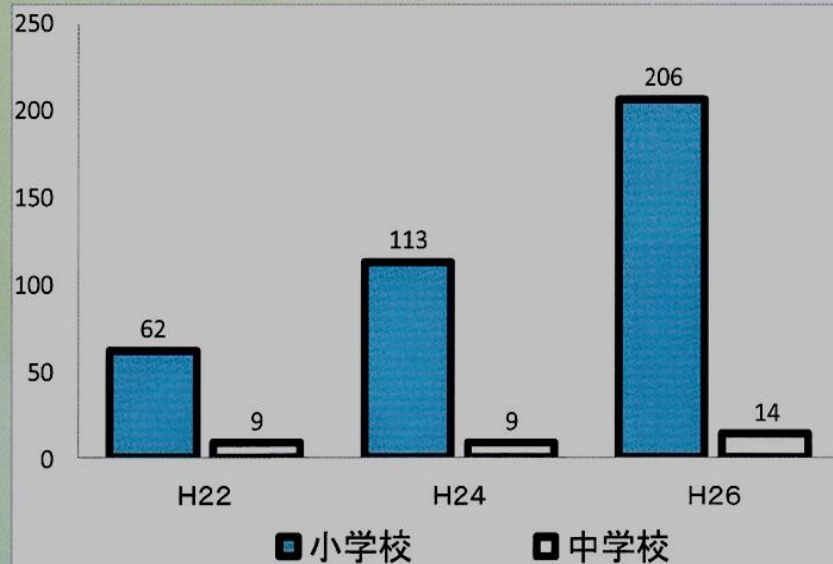
- 学校教育支援学生ボランティア
- メンタルフレンド
- 学校支援地域本部
- 教育支援コーディネーター室
- 適応指導教室「太陽の子」

特別支援学級(固定・通級)の推移

(1)特別支援学級(知的障害学級)の児童・生徒数の推移(平成26年12月現在)



(2)情緒障害等通級指導学級の児童・生徒数の推移(平成26年12月現在)



特別支援学級(知的障害学級)の児童・生徒数は、小学校においては、やや減少傾向で推移しています。反対に、中学校においては、増加傾向で推移しています。

今後、調布市の教育人口は、増加の傾向にあると予測されています。このことにより、特別支援学級(知的障害学級)に在籍する児童・生徒も同様の傾向が見込まれることを念頭において、計画的な整備を図ることが必要です。



教育支援の充実

○インクルーシブ教育システム構築モデル事業の実績と成果

→27年度には合理的配慮協力員を4名配置。飛田給小を4校目の拠点校にし、小学校を4つのブロックに分け取り組む。
28年1月には3年間の成果を集約した発表会を開催予定

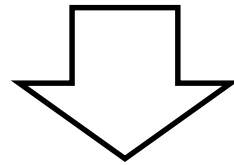
○特別支援教育

潜在的な数も含めて、情緒・発達障害の児童が増えている。
学校はより専門性の高い対応、さらなる環境整備が必要。

→26年度には小学校に続き、中学校全校にもスクールサポーターを配置。派遣型も5名体制とし、学校と教育委員会が連携して取り組んでいる。

平成26年度 調布市一般会計決算 (文教委員会所管部門)

採決の結果



全員異議なく、**原案を認定**

文教委員会報告を終了いたします

ご清聴

ありがとうございました

文教委員一同

(写真・グラフは調布市・視察記録より掲載)